

国土交通省成長戦略（抄）

平成22年5月17日 国土交通省成長戦略会議

戦略2：首都圏の都市間競争力アップにつながる羽田・成田強化

2. 課題に対応した政策案

(2) 成田空港における改革の方向性

① 現段階での発着枠増の見通し

成田空港については、旺盛な首都圏の国際航空需要に対応する国際線のメイン空港として、羽田空港との一体的運用を図りつつ、アジア有数のハブ空港としての地位を確立する。このため、昨年末以降、30万回化に向けて進められている地元協議の結果を踏まえ、以下で示す最短の見通しを念頭に置きつつ、駐機場等の増設に取り組み、着実に容量拡大を進めていく必要がある。

- ・平成23年度中 : 25万回 (+3万回)
- ・平成24年度中 : 27万回 (+2万回)
- ・平成26年度中 : 30万回 (+3万回、累計+8万回)

② 空港処理能力の拡大に向けた取り組み

際・際、際・内、内・際乗り継ぎ時間の短縮を含め、より利便性の高いダイヤの設定を可能とするため、平成23年度中を目途に同時平行離着陸方式を実施し、ピーク時の空港処理能力の拡大を図る。

③ アジア有数のハブ空港としての抜本的機能強化

今後の発着枠の増加にあわせて、更なる国際航空ネットワークの強化を実現しつつ、インバウンド観光の振興等の観点から、国内線用の発着枠を拡大することで、国内フューダー路線の拡充を図り、羽田空港と同様、内・際ハブ機能を強化する。

また、LCCの本格的な参入促進を図るため、専用ターミナルの整備等により、低コストオペレーションが可能となる環境を整えることとする。

さらに、これまで発着枠が希少であったために十分な対応ができてこなかった**ビジネスジェット**の乗り入れ需要に対しても、**専用ターミナルの整備等**により、**首都圏を代表するビジネスジェットの受入空港としての抜本的機能強化**を図る。